

2021年度第3回日本学生オリエンテーリング連盟幹事会

※ ICMR2021の結果による枠振り配分についての議論のみ抜粋

1. 概要

日時 2022年2月28日 9:15~

場所 IDEAL CONFERENCE SPACE (新大阪)

[参加者(敬称略)] 18人

幹事長：若月

副幹事長：永山

普及：近藤

事務局：金澤・松本

広報：祖父江・坂巻

会計：中野

監査：衣笠・浴本

北東：藤澤

関東：羽田

東海：今井

関西：谷

中九四：牧島

技術：栗生

SPU：遠藤

技術委員会：谷川

欠席

事業部：菊地

北信越：高木

▼資料フォルダ

<https://drive.google.com/drive/folders/1iiGcBs6AYxxwMzksBe2z5F0-X1ithoyq?usp=sharing>

2. ICMR2021結果関連議題

粟生：今回の結果を使うと表の通り、男女ともに東北大学の欠席による北東学連競技者の減少、他に大幅な変化はないと読み取れる。その場合の来年度インカレの枠計算として、以下が想定できる

1 従来通りの方法を採用

2 今年度の成績を利用して計算される枠数が、今年度インカレミドルで適用された枠数より減少した地区学連についてのみ昨年度を採用

3 今回はなしで全体昨年度を採用

4 その他の方法の提案

粟生：懸念として、このような処置を行うと、後出しという捉え方をされてしまうことか上げられるが、現段階として、東北大学を含め学生から意見は出てきていない為、2021年度を採用するのが通例と考えられる。

若月：その他として選択肢が増える可能性があれば考える必要はあるが、この候補内で決めるならば今議論内で決めてよいこととする

また2の案を採用する場合、適用する該当学連は北東学連のみ、北東学連の枠のみを指定、他はそのまま従来通りとして枠振りを行う。全体としてはセレの通過者が増える計算になる

[幹事会投票]

1 7人

2 6人

3 2人

4 0人

若月：その他の選択肢はないものとし、今議論内で方針を決めるものとする

各支持の詳しい意見があるものは？

裕本：2案が好ましい。

その理由として、確かに栗生さんの言うとおりに、結果如何で枠配分方法を変更するのはよくないという思いもあるが一方で、出場停止が直前のことであり、出場できなかった場合について各校の承認もできてない、かつ、幹事会で十分に議論できていない。

そのため、今回は特例として大きく枠数の減少した北東学連男子のみ昨年度の枠配分を用いるべき。なお、今回の反省を踏まえ、各校の参加状況を見て枠配分方法を決めるのではなく、予め枠配分方法を決めておき、それをインカレ1ヶ月前くらいに各校に周知し、承認を得るプロセスが必要であると考えている。

牧島：2がふさわしい。枠決めであれば規則にのっとって平等性にのっとって枠配分を行うのがいいのでは？

藤澤：当事者であるが2である。東北で7人の欠員、入賞経験者も出れていない。1のような枠ふりを行われるのは置いてきぼり状態であるため、北東学連へ救済処置を求める。

栗生：1がふさわしいと思う。不参加である可能性はわかった、それを見越した議論をすべきであった、インカレ枠というのは幹事会で特例で認めるのはよくないのでは？

羽田：栗生の意見と、同様の意見で、事後に救済措置を認める前例を作り出すことが好ましくない。多くの学連で起こった場合、を考えると強さに関わらず、関東学連でも7人の欠員、ゆえに北東学連のための処置を行うのは平等ではなく好ましくない。北東だけを特例で認めて2、3の処置にするのはよくないのでは？

谷川：東北が出なかったが、学連内繰り上げで、別の選手が出てるので枠の数の選手が出ているので規則通り配分してもよいのでは？

藤澤：北東の補充はあるが、欠席も補充も関東と同じだが、セレクションエントリーの数が少ないため、セレポーターで10位～20位の選手も出場できていない、関東よりは状況が悪い。そのため、関東と北東を同等として扱うのは無理があるのでは

若月：3がふさわしい。インカレの結果とは切り離して考えるべきであると考えている。そのため、案2は適切ではない。インカレ直前で大幅な選手の入れ替えが発生している時点で、不利益を被っている地区学連があるのは明らか。そのため、3のような特例措置をとることが適切であると考えている。

羽田：3に対する反対意見として2021年度と同じとなると北信越が不利益、2020年度ロングには北信越学連が出場しておらず、北信越学連加盟校の許可は得ているものの、2021年度の枠が学連枠の2枠のみとなっている事実がある。

栗生：インカレまでに話しあえなかったため、事前に来年度は検討、救済処置を検討しても

遠藤：この議題はどちらを選べば公平ということでもなく、結果が出揃った後に選択の余地を議論している時点で恣意的要素を排除できない。その観点では明確に学連の不手際であるため競技者へのお詫びは必要と考える。

枠配分に関して何の議論・周知も無しにインカレを開催した以上は、加盟校は当初より1案を想定している可能性が高く、この場の結論としてもそれが妥当。ただしそれによって生じる北東の不利益が無視できないということであればそれは北信越側から総会の遡上に上げてもらうべき。

(投票) 幹事のみ

1 8人

2 2人

3 1人

棄権 0人

1が過半数として、幹事会としては1の方針を進める